

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

天井躯体に固定した天井固定枠と壁躯体に固定した縦柱固定枠からなる下地材に、両端の縦柱とそれをつなぐ複数本の横柱からなる枠組の柱間に内装設備を設けた間仕切壁を複数横方向に並設し固定して得られる間仕切ユニットにおいて、一部の間仕切壁の内装設備は縦柱と横柱と床面で形成される開口部にドアが設けられたドア設備であって、当該間仕切壁の縦柱の表面を被覆するように縦枠が固定されていることを特徴とする間仕切ユニット。

【請求項 2】

一部の内装設備が収納棚であることを特徴とする請求項 1 に記載の間仕切ユニット。

10

【請求項 3】

収納棚の背面にガラスが嵌め込まれたことを特徴とする請求項 2 に記載の間仕切ユニット

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ドア部分の縦枠が容易に交換できる間仕切ユニットに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、学校等の建物内において、廊下と教室を間仕切る間仕切壁は、出入り口、窓部、壁面、収納棚を一体化したユニットが用いられている。

20

【0003】

しかし、これらのユニットは、金属製建具を主体とするものであって、機能性だけの殺風景なものであったが、近年、ぬくもりを感じる木質材料を用いた間仕切ユニットが用いられるようになった。

【0004】

例えば、特許文献 1 には、天井面と床面に木治具レールを敷設し、サッシュ窓や木製パネルを嵌込んだ門型の木製間仕切壁を木治具レール間に嵌込み、あるいは、床面の木治具レールを敷居レールとして引戸を嵌め込んだ門型の木製間仕切壁によって、迅速かつ容易に木製の間仕切ユニットを形成することができる。

30

【0005】

しかし、多くの子供が走り回る学校施設では、教室や廊下の壁や戸が破損する場合も多く、特に出入り口の引戸は頻繁かつ乱暴に開け閉めされたり、物をぶついたりすることで、木製の縦枠が傷付き、著しくはひびが入ったり割れたりする場合もある。

【0006】

このような場合、特許文献 1 の各図面を見ればわかるように、木製間仕切壁は、枠が縦勝ち（縦枠で横枠を挟み込む）に形成されており、衝突し易く破損の可能性が極めて高い縦枠を交換するには、木製間仕切壁（引戸の枠部分）全体を取り外し分解して交換するため、手間と費用が極めてかかる。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

【特許文献 1】特開平 7-48889 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

本発明は、特に学校施設のように破損の可能性の高いドア部分の縦枠を容易に補修交換できないという問題点に鑑みてなされた発明であり、その目的は、ドア部分の縦枠を容易に交換することができ、付随的には施工性を高めることができる間仕切ユニットに関する

50

ものである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

第1の発明は、天井躯体に固定した天井固定棧と壁躯体に固定した縦柱固定棧からなる下地材に、両端の縦柱とそれをつなぐ複数本の横柱からなる枠組の柱間に内装設備を設けた間仕切壁を複数横方向に並設し固定して得られる間仕切ユニットに関するもので、間仕切ユニットを構成する一部の間仕切壁の内装設備は縦柱と横柱と床面で形成される開口部にドアが設けられたドア設備であって、当該間仕切壁の縦柱の表面を被覆するように縦柱が固定されていることを特徴とする。

【0010】

第1の発明では、間仕切ユニットの一部に設けられたドア設備の開口部の縦柱にその表面を被覆するように縦柱が固定されているので、縦柱の交換が容易に行える。

【0011】

第2の発明は、請求項1に記載の間仕切ユニットの一部の内装設備が収納棚であることを特徴とする。

【0012】

第2の発明では、間仕切ユニットに最初から収納棚が組み込まれるので、後から収納工事を行う必要がない。

【0013】

第3の発明は、請求項2に記載の収納棚の背面側にガラスが嵌め込まれたことを特徴とする。

【0014】

第3の発明では、収納棚を設けても採光を得ることができ、通路側に向けて陳列棚にもなる。

【発明の効果】

【0015】

本発明によると、縦柱の表面を被覆するように縦柱を固定することで、表面に出ている縦柱が傷付き、ひびが入ったり割れたりした際に縦柱の交換が容易に行える。また、縦柱は目に見える表面部分だけなので、交換のコストも安くなる。さらに、間仕切壁を立てた後に縦柱を現場の寸法に合わせて調整できるので縦柱を床面まで正確にカバーできるので、意匠性が良くなる。

【0016】

また、従来は窓のあった部分の有効活用として、収納棚を設けることで、収納スペースを増やすことができ、間仕切ユニットに最初から収納棚が組み込まれるので、後から別に収納工事を行う必要がない。

【0017】

さらに、収納棚の背面にガラスを設け嵌め込めば、室内の空調を快適に調整でき、廊下側からの採光を得ることができ、通路側に向けて生徒の作品等の陳列棚にもなる。また、通路側からいたずらされたり盗られたりすることを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】本発明の間仕切壁を複数横方向に並設し躯体に固定して得られる間仕切ユニットの正面図である。

【図2】図1の間仕切壁に内装設備を設けた間仕切ユニットの正面図である。

【図3】内装設備を省略して縦柱と横柱だけを示した間仕切壁の正面図である。

【図4】図3の縦柱を被覆するように縦柱を固定した間仕切壁の正面図である。

【図5】図3のA-A線断面図である。

【図6】図4のA-A線断面図である。

【図7】縦柱の斜視図である。

【図8】収納棚の背面にガラスを挿入する斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 9】収納棚の背面のガラスの固定方法の模式図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。なお、以下の実施形態は、本質的に好ましい例示であって、本発明、その適用物、あるいはその用途の範囲を制限することを意図するものではない。

【0020】

図 1 は、本発明の間仕切壁 W を複数横方向に並設し躯体に固定して得られる間仕切ユニット U の正面図である。図 1 では、間仕切ユニット U の骨組み（縦柱、横柱）が明確にわかるように、枠組の柱間に設ける内装設備を省略した。両端の縦柱 1 を横柱（上枠 2、中鴨居 3、3'）でビス等を用いて接合した間仕切壁 W の柱間の空間に後述する内装設備を設けた後立設させ、上枠 2 を天井躯体に固定した天井固定枠 4 に天井固定金具 21 で固定すると共に、床面の不陸を縦柱 1 の下端に設けたアジャスター 13 で高さ調整のうえ、床固定金具 12 で床面に固定する。

【0021】

間仕切壁 W は、複数（図 1、2 では 4 台）立設するが、端部にもうける間仕切壁 W の端部側の縦柱 1 を壁躯体に固定した縦柱固定枠 5 に壁固定金具 11 で固定すると共に、他方側の縦柱 1 を隣接する間仕切壁 W の縦柱 1 とをよとい実等で接合し、同様の作業を残り 2 台の間仕切壁 W に施すことで、図 1 に記載の間仕切ユニット U により部屋と廊下を仕切ることができる。

【0022】

図 2 は、間仕切壁 W において、間仕切壁 W を構成する両端の縦柱 1 とそれをつなぐ上枠 2 と中鴨居 3、3' からなる枠組の柱間に内装設備を設けた状態の図であり、最終完成した間仕切ユニット U の正面図である。ここで内装設備とは、ドア設備 D、収納棚 S、上窓 M が示されるが、その他普通の壁部分や腰壁と窓部分等、種々の設備が考えられる。

【0023】

図 3 は、間仕切壁 W でドア設備 D を形成する場合を示すが、図面を見易くするため。内装設備（引戸）を省略して縦柱と横柱だけを示し、長尺部分を省略して一つの図面に収まるようにして間仕切壁 W の正面図を表した。以後、図 6 までは同様の方法で記載しており、その部分については説明を省略する。

【0024】

図 4 は、図 3 において、縦柱 1 に化粧柱としての縦柱 6 を被覆した状態の正面図である。図 5 は、図 3 の A-A 線断面図であり、図 6 は、図 5 において、縦柱 1 に化粧柱としての縦柱 6 を被覆したものである。図 7 は、ここで使用する縦柱 6 の詳細を示したものであり、縦柱 6 の裏面側には、縦柱 1 を被覆するための略同形状の凹部を設けている。表面側には細溝 63 が設けられており、図 4、図 6 に示すように縦柱 1 に縦柱 6 を被覆した後、細溝 63 からビス等を打ち込んで固定し、細溝部分 63 にカバー材（パッキン）61 を充填することで、ビスを隠すと共に施工後の引戸の戸当りとしても使用ができる。縦柱 6 の下端部で、縦柱 1 を床面に固定している床固定金具 12 やアジャスター 13 が隠れるので、意匠性に優れた間仕切ユニット U が得られる。

【0025】

図 8 は収納棚 S の展示棚部分の背面（廊下側）にガラスを嵌め込む。ガラスの固定方法としては種々考えられるが、例えば、展示棚部分の廊下側端部に溝を設けてガラスを矢印のように一方からスライドさせ、定位置に配置した後、図 9 に示すように側板部押さえ部材 92 で横方向の溝を押さえ、天板裏側に天板部押さえ部材 91 で押さえることで、ガラスを固定する。なお、展示棚部分の棚板、仕切り板の位置に合わせて裏面のガラス上から飾り棒を両面テープで貼り付けることで、廊下側からでも見栄えよく展示物を見ることができる。

【産業上の利用可能性】

【0026】

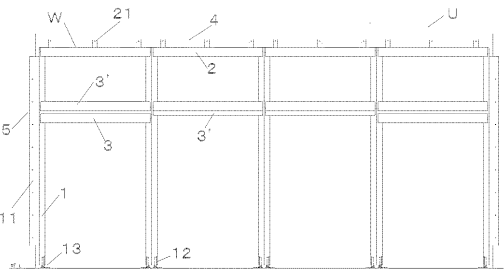
以上説明したように、本発明は、ドア部分の縦枠を容易に交換することができる間仕切ユニットに関して有用である。

【符号の説明】

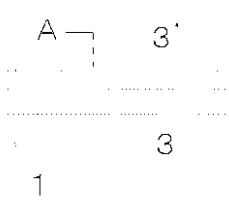
【0027】

- U 床下空間
- W 床上空間
- D ドア設備
- S 収納棚
- 1 縦柱
- 2 横柱（上枠）
- 3、3' 横柱（中鴨居）
- 4 天井固定枠
- 5 縦柱固定枠
- 6 縦枠
- 6 3 カバー材

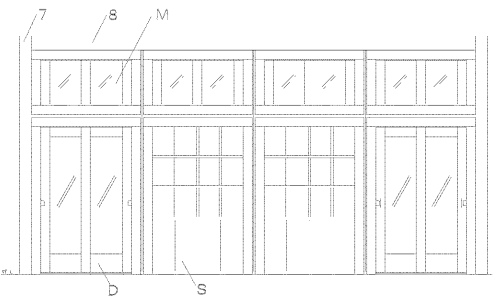
【図1】



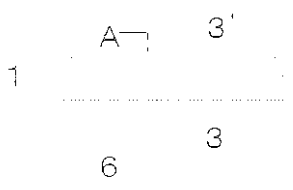
【図3】



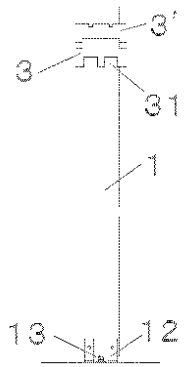
【図2】



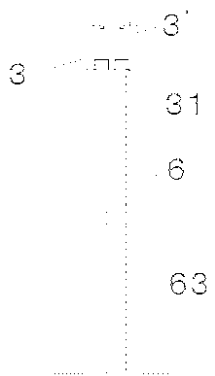
【図4】



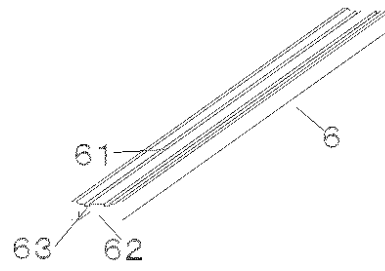
【図 5】



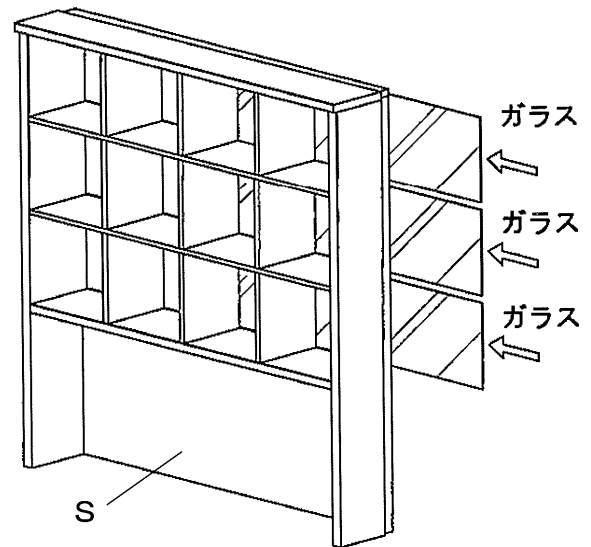
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

